

# 主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	坂井田 瑠衣
主論文題目： 相互行為としてのマルチモーダル・アクティビティ： 多重に絡みあう身体時空間資源の即興的利用				
(内容の要旨)				
<p>相互行為とは、言語的やりとりだけを指すのではない。古典的研究では発話連鎖を中心に分析してきたが、身振りや視線などの身体的やりとりも重要である。我々は無自覚的に、互いの身体を微細に観察し反応する。その過程を明らかにするには、相互行為の微視的分析が必要である。さらに、医療や調理などの身体を介した共同的な活動も、状況に埋め込まれた相互行為である。本論文の目的は、相互行為として展開される共同的活動において、いかに身体的・時間的・空間的資源を即興的に利用するかについて、(1) その構造的特徴を描き出し、(2) その過程を研究の俎上に載せるための枠組みを提示することである。歯科診療、協同調理、展示物解説場面を観察し、共同的活動における相互行為の過程を微視的に分析する。マルチモダリティ、参与構造、成員性という観点から、いかなる要因によって相互行為資源としての意味が見出されるのかを記述することで、以下の知見が導出される。</p> <p>(1) 共同的活動を支える二つの構造的特徴が明らかになる。(i) 共同的活動においては、参与者の志向が複合的に表示／表出される (<b>multiple display/expression of orientations</b>)。伝達意図を伴う行動でも、発話連鎖や身体配置、物理的環境などとマルチモーダルに組み合わせられ、特定の伝達意図にとどまらない意味が生じ、相互行為資源として複合的に理解される。(ii) 共同的活動には、多層的な利用可能性 (<b>multilayered availability</b>) が生じる。身体行動は当座の活動に周辺的に参与するための資源として、さらには会話を開始するための資源としても利用される。とりわけ成員性が強く共有された場面では、参与者たちは成員性に基づく規範を当てにし、互いの行動に対して能動的に意味を見出す。ただしその規範は一定でなく、参与地位が周辺的になるにつれ、規範性が低くなる。(i), (ii) の構造的特徴によって、複合的かつ多層的に、すなわち多重に絡みあう身体的・時間的・空間的資源が、即興的に利用されるのである。</p> <p>(2) 共同的活動の過程を研究の俎上に載せるための、二つの新たな枠組みを提示する。(i) マルチモーダル・アクティビティ：会話外行動が当座の局面や発話連鎖、身体配置や物理的環境に埋め込まれて利用されることで組織される活動を、従来のマルチモーダル会話と区別した概念である。(ii) 暗黙的協同：マルチモーダル・アクティビティの一形態として、伝達意図を伴わず、かつ参与構造を跨いで多層的に連鎖する共同的活動を定式化した概念である。</p>				
キーワード：社会的相互行為、マルチモダリティ、身体性、状況依存性、相互行為分析				